

R7 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	国語・論理国語（普・理）	単位数	2	担当者	丸山
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

論理国語（筑摩書房） 新訂国語図説（京都書房） 核心漢字 2500＋語彙 1000（尚文出版） 改訂版現駄文キーワード読解（Z 会） 近現代文学コレクション（第一学習社）
--

2、科目の目標

言葉の使い方、読解の仕方を学ぶことで、日常のことがらや社会問題の分析の仕方を修得し、ものの見方、感じ方、考え方を深める。 また、自分の言葉で考えたことを、様々な方法で表現する方法を学ぶ。
--

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4 月	①岡真理「虚ろなまなざし」	①比喩表現や筆者の独特な言い回しを正しく理解する。	35	①②
	5 月	②野家啓一「物語と歴史のあいだ」	②具体例の使用により抽象的なテーマを語る手法を理解する。		③④⑤
	6 月	③高橋源一郎「ぼくらの民主主義なんだぜ」	③具体例や実例から主張を導く手法を学ぶ。		
	7 月	④森本あんり「ポピュリズムとは何か」	④言葉で伝えることの意義と危うさについて考える。		
	8 月		⑤筆者の主張を正確に読み取り、その有用性と怖さについて考える。		
後期	9 月	⑤仲正昌樹「何のための「自由」か」		35	⑥⑦⑧
	10 月	⑥前田英樹「絵画の二十世紀」	⑥芸術論にふれ、近代と芸術との関連を述べた論理展開を理解する。		
	11 月	⑦佐伯啓思「過剰性と希少性」	⑦貨幣論にふれ、筆者の主張を理解し、ものごとを考える糸口とする。		
	12 月	⑧中井久夫「戦争と平和についての観察」	⑧戦争に関する文章から、生き方や他者とのかわり方を考える。		
	1 月	問題演習			
	2 月				
	3 月				

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	論理的文章や実用的文章・資料を正しく読み解き、理解・活用するために必要な知識・技能を身につける。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	社会の問題や様々なテーマに関するものの見方を養う。 自分の意見を持ち、他者の意見を尊重しながら主張することができるようになる。	定期テスト、成果物（作成物や発表等）
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、自ら試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業態度

5、学習にあたっての注意とアドバイス

- 客観的に本文の主旨（筆者の意図）を理解する習慣をつけましょう。 - 文章の構成を意識し、段落ごとの役割を理解するよう努めましょう。 - 辞書や漢字練習帳を繰り返し開いて、語彙力定着に努めましょう。 - 普段から様々な文章に親しむと共に、常に身の回りの事象に対して興味関心を持って過ごすよう心がけましょう。

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	国語 ・ 論理国語 （森・イ）	単位数	2	担当者	島川
---	----	-------	-----------------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

新編論理国語（東京書籍） 新訂国語図説（京都書房） 常用漢字ダブルクリア別冊（尚文出版）
基礎からの国語表現の実践 2 訂版（啓隆社）

2、科目の目標

- ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
- ・様々な文章の読解を通し、論理的に考え、表現できる能力を養う。

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4 月	①評論「最初のペンギン」	①筆者の考えを手がかりに、自分の生き方について考える。	35	①②
	5 月	②評論「豊かさと生物多様性」	②論の展開に注意して読み、生物多様性の重要性と課題について理解を深める。		
	6 月	③評論「物語の外から」 ④評論「ロボットが隣人になるとき」 <u>※年間を通し、語彙および進路に関する文章の指導（作文・履歴書等の書き方）を行う。</u>	③「語る」ということの本質について考えを深める。		③④
	7 月		④哲学的な思考に沿って書かれた評論から、人間の意志や自由について理解を深める。		
	8 月				
	9 月				
後期	10 月	⑤評論「言葉は『ものの名前』ではない」	⑤言語と認識の関係を具体例からとらえ、言葉の働きについて考える。	35	⑤⑥
	11 月	⑥評論「科学的『発見』とは」	⑥科学的視点の持ち方とその意義を理解する。		
	12 月	⑦評論「もう一つの知性」	⑦科学的思考とは異なる思考の在り方を理解し、現代社会を生きるに必要な態度について考える。		⑦
	1 月				
	2 月				
	3 月				

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	論証や学習のために必要な幅広い知識・技能を身につける。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	読むこと、書くことを通し論理的・多面的に思考し表現する力を鍛える。	定期テスト、レポート、作成物、発表
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、自ら試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業態度

5、学習にあたっての注意とアドバイス

- ・漢字力、語彙力定着のために、辞書を活用しましょう。
- ・授業での学習活動では、集中して読んだり考えたりして積極的に取り組みましょう。
- ・提出物に関しては、期限などの指示をよく聞き、提出期限を必ず守りましょう。
- ・日常より言葉を通して積極的に他者や社会と関わろうとする意識を持ちましょう。

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	国語 ・ 古典探究（普）	単位数	3	担当者	仁科・杉村
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	-------

1. 教科書・副教材

『高等学校 古典探究 古文編・漢文編』（第一学習社）、 『新訂国語図説』（京都書房） 『解釈のための 必携 古典文法』（啓隆社）、 『Key&Point 古文単語 330』（いっずな書店） 『新明説漢文』（尚文出版）、 『SPEED 攻略 10 日間 国語 和歌』（Z 会）

2. 科目の目標

・単語力、古典文法や漢文の句法、古典常識等の知識を反復学習し、総合的な読解力を養う。 ・古典についての理解や関心を深めることにより、人生を豊かにする態度を育て、学習に主体的に取り組むことで、ものの見方、感じ方、考え方を広くする。

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4 月	①『大鏡』 「花山天皇の出家」	①『大鏡』の読解を通して、歴史物語の叙述方法や人物や内容の描かれ方について理解を深める。また敬語についての知識を復習し、敬語から主語を把握する力を磨く。	53	①②
	5 月				
	6 月	②漢詩（抜粋）	②漢詩の基本事項を再確認するとともに、それぞれの詩に読み込まれた心情や情景を味わう。		③④
	7 月	③『源氏物語』 「若紫」	③古文の長文読解に慣れるとともに、作品・時代の背景知識について理解を深める。文章の中で描かれる心情の変化や、垣間見の語られ方について読み取る。		
	8 月	④「諸家の思想」	④文化・政治に影響を与えてきた諸子百家の思想について、長く読み継がれてきたことばの特徴に着目し、その論法に触れながら自らの考えを豊かにする。		
後期	9 月			52	⑤⑥
	10 月	⑤『更級日記』 「門出」「源氏の五十余巻」	⑤作品の成立した背景や他作品との関係を踏まえながら解釈する。本文に表現された心情を読み取り、日記に描かれた内容が作者にとってどのような意味を持っていたのかを読み取る。		
	11 月				
	12 月	⑥『俊頼髓脳』	⑥歌論の構成や展開、表現の特色を的確に読み取り、作者の考えを理解する。また自分の知見と結び付けながら、論じられている作品への解釈を深める。		
	1 月	『無名抄』『無名草子』			
	2 月				
	3 月	問題演習	演習問題中心の授業となる。		

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深める。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、ものの見方、感じ方、考え方を伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。	定期テスト、レポート、提出課題
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。また言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して積極的に他者や社会に関わろうとする。	出席、提出物、授業への取り組み

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

・繰り返し音読し、古文や漢文のリズムに慣れましょう。 ・必ず予習（筆写・語句の意味調べ・品詞分解・書き下し文の作成・口語訳等）をして授業に臨みましょう。予習と復習の繰り返しによって語彙量を増やし文法事項や句法を自分のものにしましょう。
--

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	国語 ・ 古典探究（理）	単位数	2	担当者	仁科・杉村
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	-------

1. 教科書・副教材

『高等学校 古典探究 古文編・漢文編』（第一学習社）、 『新訂国語図説』（京都書房） 『解釈のための 必携 古典文法』（啓隆社）、 『Key&Point 古文単語 330』（いっずな書店） 『新明説漢文』（尚文出版）、 『SPEED 攻略 10 日間 国語 和歌』（Z 会）

2. 科目の目標

・単語力、古典文法や漢文の句法、古典常識等の知識を反復学習し、総合的な読解力を養う。 ・古典についての理解や関心を深めることにより、人生を豊かにする態度を育て、学習に主体的に取り組むことで、ものの見方、感じ方、考え方を広くする。

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4 月	①『大鏡』 「花山天皇の出家」	①『大鏡』の読解を通して、歴史物語の叙述方法や人物や内容の描かれ方について理解を深める。また敬語についての知識を復習し、敬語から主語を把握する力を磨く。	35	①②
	5 月				
	6 月	②漢詩（抜粋）	②漢詩の基本事項を再確認するとともに、それぞれの詩に読み込まれた心情や情景を味わう。		③④
	7 月	③『源氏物語』 「若紫」	③古文の長文読解に慣れるとともに、作品・時代の背景知識について理解を深める。文章の中で描かれる心情の変化や、垣間見の語られ方について読み取る。		
	8 月	④「諸家の思想」	④文化・政治に影響を与えてきた諸子百家の思想について、長く読み継がれてきたことばの特徴に着目し、その論法に触れながら自らの考えを豊かにする。		
後期	9 月			35	⑤⑥
	10 月	⑤『更級日記』 「門出」「源氏の五十余巻」	⑤作品の成立した背景や他作品との関係を踏まえながら解釈する。本文に表現された心情を読み取り、日記に描かれた内容が作者にとってどのような意味を持っていたのかを読み取る。		
	11 月				
	12 月	⑥『俊頼髓脳』	⑥歌論の構成や展開、表現の特色を的確に読み取り、作者の考えを理解する。また自分の知見と結び付けながら、論じられている作品への解釈を深める。		
	1 月	『無名抄』『無名草子』			
	2 月				
	3 月	問題演習	演習問題中心の授業となる。		

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深める。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、ものの見方、感じ方、考え方を伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。	定期テスト、レポート、提出課題
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。また言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して積極的に他者や社会に関わろうとする。	出席、提出物、授業への取り組み

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

・繰り返し音読し、古文や漢文のリズムに慣れましょう。 ・必ず予習（筆写・語句の意味調べ・品詞分解・書き下し文の作成・口語訳等）をして授業に臨みましょう。予習と復習の繰り返しによって語彙量を増やし文法事項や句法を自分のものにしましょう。
--

R 7 年 度 学 習 の 手 引 き (シ ラ バ ス)

3	学 年	教 科 ・ 科 目	国 語 ・ 古 典 研 究 (理 数 科 ・ 文 系)	単 位 数	2	担 当 者	杉 村
---	-----	-----------	-------------------------------	-------	---	-------	-----

1. 教科書・副教材

『読み解く古典3』(浜島書店)	『改訂版 古典速読トレーニング』(数研出版)	
『新訂国語図説』(京都書房)	『解釈のための必携古典文法』(啓隆社)	『必携 新明説漢文』(尚文出版)
『わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語 330』(いっぴな書店)	『SPEED 攻略 10 日間 国語 和歌』(Z 会)	

2. 科目の目標

・1、2 年次の学習の成果を踏まえ、古語、古典文法や漢文の句法の確認および用例に習熟する。 ・「古典探究」の学びを土台に、受験にも対応できるより深い古典演習を行う。

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前 期	4 月	①古文 1～5	速読小テスト ・文章を時間内に読み通すためのトレーニングをする。 ・「文章を大きくとらえる力」を集中的に鍛える。 ・異なる文章の比べ読みや古漢融合問題を解くことで、大学入学共通テストの対策とする。	35	総合問題 1
	5 月				
	6 月	②漢文 16～19			総合問題 2
	7 月	③古文 6～10			
	8 月				
	9 月	④漢文 20～24			
後 期	10 月	⑤古文 11～15	演習テキスト ・基礎的内容から応用的内容、記述等、大学入学共通テストはもとより、個別の学力テストに耐えうる学力の伸長を図る。 その他 ・小テストや演習テキストの進捗や内容に合わせ、文学史や修辞技法といった古典常識にも取り組む。	35	総合問題 3
	11 月	⑥漢文 25～28			
	12 月	総合演習			
	1 月				
	2 月				
	3 月				

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	古典の語彙や、我が国の言語文化に関する事項について理解する。	定期テスト・小テスト
思考・判断・表現	読むこと、書くことを通し論理的・多面的に思考し表現する力を鍛える。	定期テスト・提出課題
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業への取り組み

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

・必ず予習をして授業に臨むのはもちろん、演習した内容を必ず復習しましょう。予習と復習の繰り返しによって語彙量を増やし文法事項や句法を自分のものにしましょう。 ・言語文化に対する関心を深め、総合的な国語力の向上に努めましょう。

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	国語・古典講読（普通科・文系）	単位数	2	担当者	神田
---	----	-------	-----------------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

高等学校古典探究 古文編・漢文編（第一学習社）	新訂国語図説六訂版（京都書房）
新明説漢文（尚文出版）	解釈のための必携古典文法（啓隆社）

2、科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力の育成を目指す。
(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
(2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月	①『伊勢物語』 「狩りの使ひ」	①平安時代のかな文学に親しみ。平安貴族の遊興の様子や和歌に込められた思いを読み取る。	35	①
	5月				②
	6月	②『史記』 「四面楚歌」	②登場人物の関係性や言動をまとめながら、司馬遷がどのようにして当時の武将を描こうとしているのかを考える。		
	7月				②
	8月	③『源氏物語』 「夕顔の死」	③光源氏を取り巻く人間関係を理解し、登場人物の内面の描写を読み味わる。		③
	9月				
後期	10月	④『源氏物語』 「須磨の秋」 「女三宮の降嫁」	④作品の時系列や登場人物の関係性を理解してその心情に思いをいたし、時代背景や当時の文化について理解を深める。	35	④
	11月				⑤
	12月	⑤『漢詩』	⑤漢詩を多く読んで表現に着目し、描かれている世界や詩人の心情を味わう。		
	1月	⑥レポート、課題作品制作	⑥自分が選んだ作品やテーマについて調べたりまとめたりして、自分の考えをわかりやすく伝える。		⑥
	2月				
	3月				

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、伝統的な言語文化に対する理解を深める。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	論理的に考える力を養う。また、自分の思いや考えを伝え合うことで、多角的に考える視点を身に着ける。	定期テスト、レポート、提出課題
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業への取り組み

5、学習にあたっての注意とアドバイス

・授業を大切にし、扱う文章やテーマに対して積極的に読んだり考えたりしましょう。 ・自分の考えをわかりやすく述べたり、他者の考えを尊重したりして、事柄に対する理解を深めるように努めましょう。 ・普段から様々な文章に親しみ、身のまわりの事象に対して興味関心をもって過ごすように心がけましょう。
--

R7 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	国語・応用国語（森・イ）	単位数	2	担当者	丸山
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

新訂国語図説（京都書房）	（※教科書は使用しない。必要に応じ担当者が教材を作成する。）
--------------	--------------------------------

2、科目の目標

・与えられたテーマを的確に捉え、適切な情報をもとに考察し、論理的に表現する力をつける。 ・多くの課題作文を通じ、時間や時数の制限に答えられる文章表現を身につける。 ・相手や場面に応じた会話や議論の進め方を身につける。
--

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲	
前期	4月	「表現力を培う」 ①文章の基礎 ・言葉・表現への関心	①国語で「表現」することのへの関心を養う。 表現の基礎となる「自分の考え、意見」を持つことについて考える。	35	実施なし (年間を通し、レポートや作品の提出、発表等に基づき評価する。)	
	5月	・考えるということ				
	6月	②文章を読み取る ・文章の構成・要約	②的確に主題を読み取る力をつける。 要約する力、データを的確に読み取る力を養う。			
	7月					
	8月	「表現力を培う」 ③小論文・レポート入門 ④自己PRと面接	③④履歴書、志望理由書、課題作文などの書き方を学ぶ。 効果的な自己PRの仕方について考える。 自分の魅力や人柄を伝えるための話し方を探る。			
	9月					
後期	10月	「表現を楽しむ」 ⑤話すこと、聞くこと ・ショートスピーチ	⑤声で伝える力とコミュニケーション力を高める。	35		
	11月	・インタビュー	⑥自分の考えや思いを創作に結実させることで、言葉の魅力や可能性に迫る。			
	12月	⑥さまざまな表現 ・創作文	⑦さまざまな通信文の作法、電話の作法、場面に応じた話し方について理解を深める。			
	1月	「表現力を培う」 ⑦実用的な表現	※年間を通し、外部のコンクール等に応募することを目指す。			
	2月					
	3月					

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、それらを的確に使用する力を養う。	小テスト
思考・判断・表現	読むこと、書くことを通し、論理的・多面的に思考・判断し、表現する力を養う。	レポート、作成物、発表
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業態度

5、学習にあたっての注意とアドバイス

・個別作業が中心となるので、能動的に授業に参加しましょう。 ・作品提出の期日を厳守しましょう。 ・表現力や語彙力を磨くために、日常的に新聞や書籍に触れるよう心がけましょう。
--